

# FeedZai、オープンソースライセンス管理の効率化のためにProtecode Compactを採用



## オープンソースソフトウェアライセンス管理の重要性

オープンソース化やアウトソーシングが進み、検索やコピーが容易に行える今日の状況において、ソフトウェア知的財産の混入または混入が疑われる問題によって義務や負担を伴う権利侵害の裁定が下され、プロジェクトや販売サイクルまたは取引の遅延が余儀なくされることにより、結果的にソフトウェアや会社全体の価値の低下を招く可能性があります。

開発サイクルの早い段階からサードパーティ製コードを管理することは、以下の利益につながります。

- 検出された問題の修正に要する時間の削減
- 問題修正にかかるコストの大幅な削減
- 市場投入のスピードアップ
- M&A 時の遅延回避

## FeedZaiについて

FeedZai Corporation は、アメリカ、イギリスおよびポルトガルに拠点を持つソフトウェア企業で、次世代のビッグデータ解析技術を採用した、リアルタイム不正防止のための高度に先進的な製品を開発しています。同社の製品には、他の最新ソフトウェアと同様、中心的な技術を除き、多数のオープンソースライブラリおよびツールが活用されています。このプラクティスにより FeedZai は、迅速な市場投入が可能になるとともに、製品の中心的な技術を除く他の重要な技術においてオープンソースの高品質な実装に頼ることができるようになっています。

## 課題

多くの技術企業と同様 FeedZai は、オープンソースソフトウェアを積極的に活用して市場投入のスピードアップや開発コストの削減を実現しています。FeedZai の最高技術責任者である Paulo Marques 氏は、オープンソースソフトウェアを使用した知的財産にかかわる検討事項について次のように述べています。「当社は、他者の知財を私たちの知財と同様に尊重しています。私たちは、ソフトウェアの利用規約ならびにソフトウェア作成者やオープンソースコミュニティの意図への違反がないようにしたいと考えていました」また、すべての技術系企業と同様に、ソフトウェアは FeedZai にとって重要な資産であるとともに、他者の知財を侵害することなく自社の中心的技術に関連する知財を保有することは同社および投資家にとって重要でした。

## 代替手段の必要性

FeedZai は当初、オープンソースおよび第三者のコードの管理に関心を持つ多くの企業と同様、マニュアルによるコード監査プロセスを導入しました。このマニュアルプロセスは、最も基本的なライセンス要件である所有者の特定および最終製品へのライセンステキストの記載を満足するために、コードベースに採用されたオープンソースコンポーネントを特定しマーキングすること目的としていました。リリースごとに QA チームメンバー 1 名をコード監査に専従させましたが、100 万行以上に膨れ上がった同社のコードベース全体にこのプロセスを適用することは困難であることがやがて判明しました。FeedZai はある時点で、135 もの異なるオープンソースライブラリを使用しており、マニュアルによるプロセスはもはや持続不可能でした。すなわち代替手段を見つける必要がありました。

## Protecodeソリューション

次に取るべきステップはライセンス管理プロセスの自動化であることは明白でした。FeedZai はすでに、正確性、レポート機能（ハイレベルおよび詳細なフォレンジックレポート）、コスト効率、そしてなにより使いやすさという明確な要件を頭の中に持っていました。FeedZai の創設者が Protecode と確立した有望

## Protecode ソリューション

Protecode Enterprise™ は、製品に組み込むサードパーティのコードをセキュアに安全に使用するための包括的なソフトウェアコンポジション解析のソリューションです。開発やテストのプロセスの中で活用いただくか、または法務部門でサードパーティやオープンソース、自社開発、アウトソーシングや商用コードを利用することによって生じるリスクを管理するためにご利用いただけます。

「Protecode は本当に使いやすく、スムーズに習得できるシステムです。その上、Protecode のサポートチームも非常に優秀です。彼らは最初にトレーニングを実施してくれましたし、質問があったときには素早く対応してくれました。会社のコミットメントや優先事項として、「顧客第一」という素晴らしい文化があると感じました」

Paulo Marques

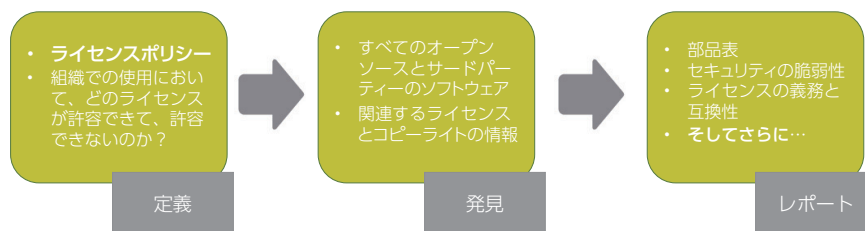
FeedZai Corporation 最高技術責任者

な情報およびエクスペリエンスに基づき、FeedZai が Protecode の Enterprise Analyzer™ (EA) によるトライアルスキャンを行ったところ、その詳細な結果に驚かされました。

FeedZai は 2010 年、1 台のマシンで作動する Enterprise Server™ および Enterprise Analyzer で構成された小規模な Protecode System 4™ ソリューションを導入しました。このソリューションにより、製品に実際にリンクされ組み込まれたすべてのコードをチェックできるようになりました。FeedZai は製品のコードスキャンを 1 か所で行っていたため、System 4 に備わるスケーラビリティが活かされることはありませんでした。

FeedZai は 2013 年、部門や小規模組織内で無制限に解析できる Protecode Compact™ への移行を実施しました。Protecode Compact は、ポルトガルオフィスの 1 台の Windows マシンに導入されました。Protecode の標準である「オールイン」ビジネスモデルで提供されるサービスには、FeedZai 向け Compact システムのインストール、セットアップ、トレーニングの完全なサポートおよび継続的なサポートが含まれており、その通りに提供されました。システムの導入およびトレーニングはスムーズに行われ、Protecode Compact の使いやすさはチーム全体からの評価を得ました。

## 結果



Protecode Compact の無制限のファイル解析により、FeedZai は自社ポートフォリオのフルスキャンを自由に行えるようになりました。Protecode Compact に備わるインテリジェンス機能により、改修されたまたは新規のコードに対するソフトウェアスキャンおよび解析が自動的に実施されるようになりました。オープンソースのパッケージ、ファイル、コードスニペットを含むサードパーティコンポーネントが完全に特定されることにより、FeedZai が定義したライセンスポリシーに違反している箇所がハイライトされた部品一覧が作成できるようになりました。FeedZai が定期的を使用している Protecode Compact のレポート機能には、ライセンスの義務に関するレポート、ライセンスへの適合性に関するレポート、連結されたライセンス一覧の出力などがあります。

定量的な成果は直ちに現れました。FeedZai の商用ビジネスモデルに基づき、コピーレフトライセンス属性を持つサードパーティソフトウェアソースコードの使用および改修を伴う利用は許容されません。従って、GPL (GNU パブリックライセンス) によって管理されるコードは同社のプラクティスでは使用できませんが、LGPL (レクサーまたはライブラリ GPL) ライセンス属性を持ったソフトウェアライブラリの使用は許容されています。通常のリリース前の QA 実施時に行われた初めての Protecode Compact のスキャンにおいて、新しい社員が意図せずに使ってしまった GPL ライブラリの存在が特定され、製品をリリースする前に速やかに削除することができました。

Marques 氏は次のように述べています。「オープンソースライセンスへの違反がないかを検証するために人員を配置する代わりに、Protecode を使ってこれを完全に自動化することができました。これにより、大切な人的リソースを製品の改善のためにより多く投入できるようになりました」